

1・6 調査研究に対する評価・倫理審査委員会

当所で実施する調査研究について、県民ニーズに合致した効率的・効果的な業務の遂行とその透明性の確保を図るため、研究計画に関する内部評価会議及び倫理審査委員会による評価を行った。

- 1 開催日
令和5年（2023年）3月中旬
- 2 委員
内部評価会議（庁内関係各課長）
倫理審査委員会（学識経験者等5名）※今回は迅速審査（書面）により実施
- 3 評価対象
計画評価（計画段階で調査研究の目的、内容の妥当性等を評価）・・・2件
- 4 評価方法
内部評価委員による書面審査及び倫理審査委員（委員長、副委員長）による迅速審査
- 5 評価結果

【1】計画評価

(1) 調査研究課題	ボツリヌス菌による食中毒防止に資するための研究
(2) 調査研究の目的	令和3年度に世界的にも稀なC型ボツリヌスによる食中毒が発生した。ボツリヌス食中毒は、発生は稀な食中毒であるが、発生すると重篤となり、危険である。治療にはボツリヌス抗毒素血清を用いて治療を行うが、国内で使用している抗毒素にはC型が含まれていない。 この研究は、今回の事例を探求し、ボツリヌス菌による食中毒を予防すること及び世界的にも稀なC型ボツリヌス菌による食中毒が今後も起こりうるか検証することを目的とする。
(3) 総合評価	了承
(4) 委員のコメント	・C型ボツリヌスによる食中毒は、その発症は稀であるが、国内で使用している抗毒素にはC型が含まれていないことから、今後の発生状況を事前に予測することは重要である。更に、世界的にも稀な発生例であれば、その分離菌について詳細な解析を行うことの学術的な意義は大きい。今後、計画通りに調査研究を進め、発生動向を把握するとともに、その成果を学術誌に発表することで、知見が広く共有されることを期待する。 ・ボツリヌス菌感染症の発生は稀であり、令和3年度に発生した食中毒事例を解析することで得られる貴重な情報を今後活かすことができ有用と考える。さらに、倫理的側面の配慮も十分なされている。
(1) 調査研究課題	重症熱性血小板減少症候群ウイルス（SFTSV）等のダニ媒介感染症の予防に資するための研究
(2) 調査研究の目的	ダニが媒介する感染症は、例年多く発生し、近年では山間部のみならず民家周辺の田畑での感染例も珍しくない。またイノシシ等の野生動物がその媒介に関与している事例も推測されている。 原因微生物もSFTSV、日本紅斑熱リケッチア等が多く存在し、厚生労働省や県においても、これらのダニ媒介性疾患の予防を啓発している状況であるが、感染症の発生は増加傾向にある。 今回の研究では、これまでの感染症の発生状況等を分析することにより、感染症発生予防のための効果的な啓発方法を検討することを目的とする。
(3) 総合評価	了承
(4) 委員のコメント	・ダニが媒介する感染症は、毎年発生し、重篤な状態となる人もいることから、地域的な発生状況も含めた情報発信は、その予防に寄与するものである。また、ネコ由来の感染ルートの有無については、この感染症の広がりを防止するためにも重要である。今後、計画書通りに調査研究が行われ、その成果が県民への周知、啓発につながることを期待する。 ・研究内容、目的も問題なく、倫理面での配慮もなされていることから承認とする。